

平成 25 年度村民意見交換会概要報告（父島）

父島における村民意見交換会では、前日に開催された兄島視察会への参加者から視察の感想をうかがったのち、「環境教育」、「観光関係」、「新たな外来種対策」の3つテーマについて意見交換を行いました。少人数での開催となり、村民からの建設的な提案を受けて対話が弾んだ一方、開催案内の広報手段には課題が残りました。

父島村民意見交換会で発言された内容について、テーマごとに「主な意見・課題」と「今回のとりまとめ」として以下にまとめました。今回いただいた意見は、今後開催される課題ワーキングの場で取り上げ、議論の進捗および結果を随時村民の皆様へフィードバックしていく予定です。

1. 環境教育について

【主な意見・課題】

- 兄島視察で希少種や外来種対策の現状を実際に見たことで、環境保全の意識が芽生えた。
- 兄島視察会のような現場を見られる機会を頻繁に設け、多くの人に現状を知っていただく必要があると思う。
- 兄島へ行かない人には、父島島内で兄島を見ながら説明する機会があるとよい。
- 今後現地視察会を企画する際には、座学の時間と視察の時間を別に設け、現地では自然、生物多様性の体感に十分な時間を割けるとよい。
- 島ごとに異なる自然史があるので、総合的な話をした上で現地に行く印象が変わると思う。
- 子ども対象の属島視察については、過去の実施実績を参考に企画検討してほしい。中高生には兄島を見せたい。
- 学校の総合学習だと時間枠が決まっていると思うので、村が主催し、子どもまで対象を拡げる形で実現してほしい。
- 学校教師、公務員の方、村の職員等、特に新任の方向けにそれぞれに教育の機会を設けてはどうか。
- 南島のガイド認定講習で、生物多様性に関するプログラムを検討する必要がある。

今回の取りまとめ

- 兄島視察は村民対象の環境教育として有意義であったため、今後も属島をはじめとした現場視察の機会を設けることとした。
- 学校教師や新たに島に赴任する方を対象とした環境教育の必要性が指摘され、今後、観光業者や NPO、専門家の協力を得つつ、効果的なプログラムについてワーキングで検討することとした。

2. 観光関係について

【主な意見・課題】

- 平成 25 年は台風の多かった 10 月 11 月に観光客数が落ち込んだ。修学旅行の新たな誘致も考えられるとよい。
- 大神山公園を、自然と生活の共存の場として整備できるとよい。案内板の充実、パンフレットの置き場所の工夫、植物の説明をわかりやすくする等し、散策しながら学べるようになるとうよい。
- 高齢者が一人で訪れても楽しめるような観光案内（グラスボート等）を充実させてほしい。

今回の取りまとめ

- 来島者の多様なニーズを満たす情報発信の必要性は感じているが、事業者側が応じきれない状況もある。観光協会とも連携し、ニーズに合った情報発信の方法について検討することとした。

○大神山公園の観光（エコツアー）や環境教育の場としてのポテンシャルが確認された。

3. 新たな外来種対策について

【主な意見・課題】

- ウズムシの危険性について、一般のカヤック所有者への周知は行っているのか。
- 宮之浜だけでなく、他の属島への発着口となる各地点での外来種対策が必要である。
- 将来的にペット条例のような形に拡充する可能性はあるか。愛玩動物としての対象範囲はどこまで含めることを想定しているか。
- このような重要な話をするのに、参加者は少ない。この場で決めるようなことはせず、議論の場をもつべき。
- 登録が必要な愛玩動物についての情報周知が不足していると思う。おがさわら丸の乗下船口で案内するか、ペット預かりの際に領収書と一緒に注意書きを配布してはどうか。
- 持ち込まれる愛玩動物の種類・数を把握するため、おがさわら丸の乗降口でアンケートを配布し、動物持ち込みの有無、連絡先と愛玩動物の種別を記入いただき、データを収集してはどうか。
- おがさわら丸の新造船にあたり、ペトルームには、隣の動物が見えないようなしきりを設けていただきたい。
- 世界遺産に登録により自由に犬の放飼に対する規制が強化され飼い主は不自由しているので、せめてドックランのような場所を整備してほしい。
- 環境教育とも関係するが、学校教育の場での教材としての生物（外来種）についても、どうあるべきか、考えるべき。

今回の取りまとめ

- 外来種対策への一般の方の巻き込み方については、この場のつながりを第一歩として、今後村民の方の協力を得ながら対策にあたることとした。
- 愛玩動物対策の範囲及び方法については、今後検討会で議論することとした。
- 本土からの愛玩動物持ち込みに関する注意喚起、島に持ち込まれる愛玩動物の把握にあたり、小笠原海運と連携した対策の必要性が確認された。
- 学校教育の中での生き物の飼養、愛玩動物の飼養は重要な体験であり、一律に持ち込みを禁止するのは望ましくないとの方針を共有し、学校と連携しながら適切な飼養体制の整備、指導を進めていくこととした。

4. その他

【主な意見】

- 東京都による「公共事業における環境配慮指針」見直し作業がまだ完了しないのは理解できない。
- 意見交換会の開催が、村民だより2月号のカレンダーに記載されていなかったのは、広報ミスだろう。
- （途中で退室された方のご意見）小笠原の昔の自然はすばらしかった。いまの自然保護の取り組みは、目指すべき自然の姿が見えているのだろうか。今回、そのような説明がなかったように思う。昔から暮らしている人の声を聞きながら、進めるべきではないか。

今回の取りまとめ

- 「公共事業における環境配慮指針」見直し作業は、本年度中の完成を見込んでいることを報告した。
- 次回の意見交換会開催時には、効果的な案内周知を行うこととした。

平成 25 年度村民意見交換会概要報告（母島）

本年度の意見交換会は、テーマを「環境教育」、「観光関係」、「新たな外来種対策」の3つに絞り、各テーマに関して行政側から取り組みの現状と課題を報告した後、村民の皆様の意見をうかがいました。母島村民意見交換会で発言された内容について、テーマごとに「主な意見・課題」と「今回のとりまとめ」として以下にまとめました。今回いただいた意見は、今後開催される課題ワーキングの場で取り上げ、議論の進捗および結果を随時村民の皆様へフィードバックしていく予定です。

1. 環境教育について

【主な意見・課題】

- 小笠原がいかに貴重な場所であるかがわかるような学校教育及び成人教育をしてほしい。
- 内地からの侵略的外来種に関するリスクについて、大人も含めた新来島者に知らせる機会が必要である。
- 小笠原高校の環境教育の取り組みも知りたい。
- 環境意識の向上のため、希少動植物を身近な場所で見られる仕組みを作ってほしい。

今回の取りまとめ

- 環境教育についてはこれまで体系的に検討されてこなかったため、いただいたご意見をふまえ今後開催されるワーキングで検討することとした。
- 実物展示の重要性を再認識し、効果的な資源活用の方法・見せ方について、地元の協力を得ながら検討することとした。

2. 観光関係について

【主な意見・課題】

- 観光満足度調査の質問項目は、母島の魅力を測りにくい気がするので、母島のアンケート項目は別に作ってはどうか。
- 石門は入林者数が増加しており、道の痛みが見られる。環境影響の問題はガイドも含め扱いを検討する必要があると感じる。
- は丸からゆり丸へ切り代わるタイミングを、おがさわら丸のドック入り後に調整できないか。
- 北港の休憩舎の屋根は見栄えが悪い。観光地としてふさわしいデザインにしてほしい。
- 雨天時に観光客を受け入れるビジターセンターの役割をする施設が母島に必要である。
- 固有動植物の写真やビデオを展示できる場所を作ってほしい。

今回の取りまとめ

- アンケート結果については、基礎資料は主要項目のピックアップであり母島での配布を行い母島滞在者の回答数増加に努めていること、結果は母島分だけを切り出せる説明をした。
- 観光客の増加に伴う環境影響に関しては、早期に対策を行えるよう、ルート劣化などが見られたらすぐに報告いただくことを依頼した。
- 雨天時に観光客を満足させられるよう、母島固有の動植物の写真や映像を展示する方法を検討することとした。

3. 新たな外来種対策について

【主な意見・課題】

- 農業者が導入する苗木の土は危険だ。農業者の理解を得、思い切った外来種対策が必要だと思う。
- 集落内の犬、ネコ対策が必要である。
- ははじま丸降船時の泥落としマットで、父島の集落地で見られる植物の種子が検出されることが多い。山域だけでなく集落地や港周辺の出口対策も強化する必要がある。
- 持ち込んでではない植物、持ち込んででも安全な植物のリストはあるのか。
- 遺伝的攪乱が起きているかどうかは気づきにくいため、未然に防げるよう早めに手を打つ必要があると思う。

今回の取りまとめ

○行政機関の回答は以下のとおり。

- ・土付き苗の対策は、方法論を含め内地で検討した後の実施になるため、中長期的対策に含まれる。
- ・母島における野ネコ対策は全体計画が定まっていない状態だが、早急な対策の必要性を認識している。
- ・資材の出口対策は実現可能な方法が見出されておらず、環境省の世界遺産センターでもカバーできない。
- ・非意図的に導入される外来種について、小笠原への導入が危険か否かを判断することは非常に難しく、リストアップは困難である。

○島民の方に協力いただきながら、実現可能な外来種対策を検討することとした。

4. その他

【主な意見】

- 静沢の街灯が白く明るい灯になったが、このような生活に関わる施設更新を行う場合、事前に多くの村民を集め、多角的な観点から議論する場を設けてほしい。

○今後の事業実施にあたっては、できる限り村民の意見を聞く機会を設けるよう努めることとした。